

『京都 京北 未来かがやきビジョン』 10年間の振り返り及び今後のまちづくり について



令和8（2026）年3月

合併から10年が経過した平成27年、京北地域の持続的な発展に向け、まちづくりを担う様々な主体が、京北の未来像、重点戦略等を共有するため、

「京都 京北 未来かがやきビジョン」を策定しました。

ビジョンでは、10年後の京北の未来像として

「人と自然、文化が輝く、京北版創造農村」を目標に据え、「雇用（しごと）」「住まい」「子育て」の3つを視点に設定しました。

この視点に沿って実施する各取組について、

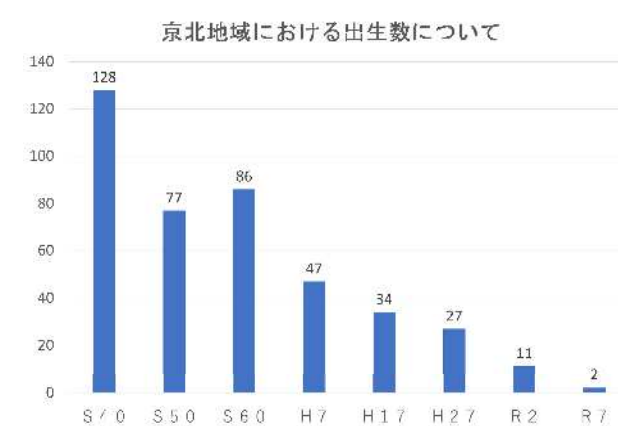
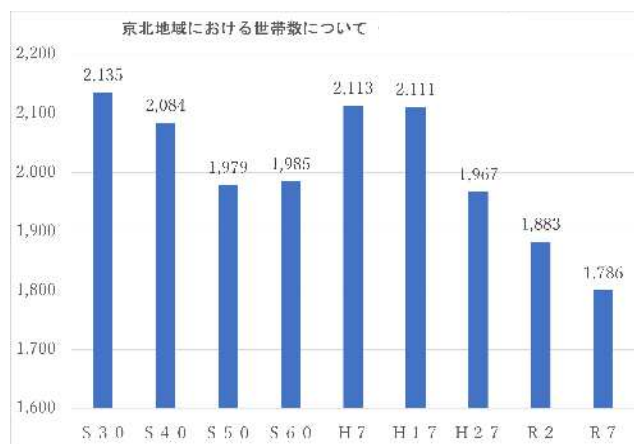
「まちの創造」「ひとの創造」「しごとの創造」「こころの創造」の4つの重点戦略に基づき、

地域住民、事業者、京都市が一体となって取り組むべき主要な施策・事業を掲げて実施してきた。



データで見る京北地域の近況

- 直近のおおむね10年間で人口は23.4%、世帯数は、9.2%減少している。
- 高齢化率については、48.8%となっており、この10年間でおおむね約9ポイント程度増えている。
- 出生数はR元年度以降10人に満たない状況（※）が出はじめ非常に厳しい状況である。
※R元:9人、R4:9人、R5:7人、R7:2人



目標の達成状況

※目標期間：平成28年度から概ね10年間

空き家活用件数以外の成果指標は「人口」「世帯数」の減少のためいずれも未達成

ビジョン策定時から概ね10年間(※)の目標の達成状況 (H28年度～R6年度)

住まい	目標：空き家活用件数 90件 ⇒実績： 89件
	目標：世帯数 270世帯増 ⇒実績：▲43世帯
雇用	目標：新規就業者数 180人増 ⇒実績： 47人増
	目標：観光施設来客数 10%増 (※H27年度比) ⇒実績：▲10%
子育て	目標：子どもの数 (18歳未満) 252人増 ⇒実績：▲253人
	目標：子どもの数 (18歳未満) の人口構成比13% (R2年) ⇒実績：8.4%

※ビジョンの策定時は目標は5年間で掲げていたが、今回は総括するに当たり、策定時から概ね10年間の目標の達成状況を記載

近年の京北地域の動き（ビジョンの具体化の主な状況）

1. まちの創造（田舎暮らしの利便性の向上、移住・定住を促進）

●：目玉施策 ◆：新規・充実施策

関連するビジョンの項目	ビジョンの具体化の主な状況
<ul style="list-style-type: none"> ● 超高速インターネット環境（光ファイバ）の整備促進 ● 通学・買い物・通院バスの効率的な運行による公共交通の利便性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者による光ファイバー整備工事完了、H29年2月からサービス開始 ・ 京北病院通院患者等送迎事業 ・ 京北地域公共交通に関するアンケート調査及び京北デマンド交通乗車体験の実施 ・ 路線バスで行く「いけいけ京北 親子でGO！」の実施
<ul style="list-style-type: none"> ● 移住・定住促進（相談窓口の設置・定住助成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北部山間移住相談コーナーの開設（コーナーを通じ96組189名が移住） ・ 京北移住・定住促進連絡会発足 ・ 北部山間移住促進地域助成制度を活用した各自治会の自主的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家の流通促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田舎暮らし体験住宅の整備（3軒。利用者17組中10組が北部山間地域に移住） ・ 北部山間移住相談コーナーで空き家マッチング
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 移住・定住促進のための滞在型モデルの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「空き家活用×まちづくり」モデル・プロジェクト
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 移住・定住希望者向けイベントへの出展 ◆ 暮らしを支える水道・下水道の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府移住交流フェア（東京・大阪） 他 ・ 京北地域水道施設再整備事業完了 ・ 地域水道事業（山間部簡易水道事業）を水道事業に事業統合 ・ 京北特定環境保全公共下水道事業及び北部地域特定環境保全公共下水道事業を公共下水道事業と経営統合
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 消防力・地域防災力の充実強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上弓削農業集落排水事業を京北特定環境保全公共下水道事業に統合 ・ 消防隊等車両整備及び全6消防分団に配置している車両の更新等を実施 ・ 京北6地区において、土砂災害ハザードマップを作成し、全世帯への配布が完了
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 未利用の公共施設の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「京都里山SDGsラボ」の開設（元京北第一小学校） ・ 「京都市京北文化遺産センター」の開設（元京北第二小学校） ・ 右京区社会福祉協議会京北事務所、京北合同庁舎へ移転 ・ 黒田トレーニングホール屋根改修

近年の京北地域の動き（ビジョンの具体化の主な状況）

2. ひとの創造（子育て・教育環境の充実、次世代リーダーの育成）

●：目玉施策 ◆：新規・充実施策

関連するビジョンの項目	ビジョンの具体化の主な状況
<p>●地域に誇りを持ち、世界で活躍する人材育成に向けた小中一貫教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市立京都京北小中学校の開校（R2年4月） ・「地域創生力」を育成する「京北ふるさと未来科」を創設
<p>●京北の地域力を活かした「公助・共助」による子育て支援の推進</p> <p>●地域おこし協力隊員との協働による地域の活性化</p> <p>◆図書のみち構想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポート事業の拠点を設置 ・京都市北部山間かがやき隊員の配置（累計11名） ・地域の活動支援（地域行事のお手伝い（山国さきがけフェスタ、黒田ふれあい祭り等）やイベント企画等） ・地域の魅力発信（特産品のPR、地域の魅力発掘等） ・魁！！山国隊プロジェクトの支援 等 ・地域の移住促進（移住相談、現地案内、地域の取組支援、空き家活用等）【再掲】 ・京都京北小中学校図書室一般開放（日曜日） ・本館（京北小中学校学校図書館）と分館（京北合同庁舎2階）を一体的に運用 ・図書管理システムの導入やみやこ杉木製の什器への更新等、館内環境の充実

近年の京北地域の動き（ビジョンの具体化の主な状況）

3. しごとの創造（農林業等の活性化、地域資源を活かした新事業の創出）

●：目玉施策 ◆：新規・充実施策

関連するビジョンの項目	ビジョンの具体化の主な状況
●地域資源を活用した農山村の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・森林バイオマス利活用推進 木材搬出の経費削減や担い手育成に繋がる取組等を支援 ・京都“悠久の灯り”プロジェクト 和蝋燭製造の継承と原料のハゼノキの移植等の実施 ・木質ペレットの需要拡大 ・クロモジ茶などの商品化 など
●滞在型アウトドア観光、グリーンツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・京北森林公園のみやこ杉木製遊具等の拡充 ・「合併記念の森」における森づくり活動の推進 ・農家民宿の開業 ・「京都京北トレイルランニング」の開催 ・地域の総合情報サイト「京都京北ナビ」の開設 ・魚ヶ淵つり橋（高瀬橋）改修工事完了
●農林業の持続的経営力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・「京都京北米」のブランド化に向けて「京都京北・農山村未来かがやき創生推進協議会」設立 ・大規模集約型林業モデル事業の推進 ・高性能林業機械等整備（効率よく木材生産を行える林業事業体育成 ・木材製材施設装置、プレカット加工施設装置の整備 ・上桂川水産業支援事業
◆事業所の誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・納豆工場の誘致 ・野菜栽培・販売企業の誘致など

近年の京北地域の動き（ビジョンの具体化の主な状況）

4. こころの創造(都市部の住民との活発な交流、こころのやすらぎの提供)

●：目玉施策 ◆：新規・充実施策

関連するビジョンの項目	ビジョンの具体化の主な状況
●教育・研究機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「魁！！山国隊プロジェクト」江戸時代初期の世界地図等の資料展示、「京都山国展」で花園大学と連携 ・京都大学と連携した「SDGsお茶会」の開催
●文化芸術による京北の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・元京北第一小学校の空き教室を芸術家等の制作・作品保管場所として整備し使用開始 ・元京北第二小学校の空き教室を芸術家等の活動拠点（多目的スタジオ兼倉庫）として整備し使用開始 ・元京北第三小学校を木工工房として整備 ・「ツクル森」アート・クラフト・世界の音楽会の開催
<ul style="list-style-type: none"> ●「こころの創造」を推進する研修プログラムの構築 ◆花の名所づくり ◆地域の活力の創造 ◆水源地保全の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業による外国人向け研修プログラムの開発 ・北部山間地域かがやき隊員による「ブックカフェ京北」 ・「けいほく うたと未来コンサート」の開催 ・「上桂川ラフティング体験」プログラムの導入（宇津峡公園） ・「花降る里けいほくプロジェクト」の推進 植樹、オープンガーデン支援、「SAKURAめぐりマップ」の制作、「けいほくSAKURAフェスタ」の開催、その他PR活動を展開 ・京都市・京北町合併20周年記念植樹 ・「京北盆踊りフェスタ」、「京北ふるさとまつり」を開催 ・集中的な森林整備に向けた新たな仕組みづくり（森林の所有者調査、境界の明確化などを実施）

近年の京北地域の動き（ビジョン以外）

その他（ビジョン以外の地域独自の動き等）

地域独自の動き等

- ・ 京都丹波高原国定公園に指定（平成28年）
- ・ 「福祉あんしん京北ネットワーク協議会」発足（平成30年）
※福祉関連施設・団体と病院、警察、消防等の行政機関が連携した京北初の組織 ※子ども・高齢者・障がい者支援の取組みを展開
- ・ 「京北丹波音頭・踊り保存会」「丹波音頭を踊る会」等による保存・継承活動 ※学生団体K-Bondとも連携 ※学まちコラボ事業
- ・ 「京北オープンガーデン」の自主開催
- ・ 京北商工会女性部「京北観光お助けマップ」「京北グルメMAP」「京北体験MAP」の作成（令和2～7年度）
- ・ 「京都京北木こり技能大会」の開催（平成28年～）※林業関係者の有志による開催 ※令和7年から「京北木こりまつり」として開催
- ・ 「ジビエ処理加工施設」民間3施設が許可取得、稼働（令和7年現在）
- ・ 京北地域の店舗による「森の京都ジビエフェア」への参加
- ・ 「京北観光連絡会」設立（令和5年）
※有志による京北初の組織 ※京都市MM事業、ホテル観賞ツアー、桜情報の発信などを展開 ※第3回右京M-1グランプリ優秀賞
- ・ 「支えあいボランティア チーム上弓削」発足（令和6年）
※有志による京北初の移動支援ボランティア組織 ※第2回右京M-1グランプリ最優秀賞 ※令和7年「チーム弓削」に改称
- ・ 「周山城址を守る会」による登城会及び講演会の実施
- ・ 「京北の文化財を守る会」による会報の発行など
- ・ 「ふるさと京北銚杉塾」「21くろやま塾」による都市農村交流活動・体験学習など
- ・ 「右京つながるマルシェ」への出店（樹々の会、山国さきがけセンター、ウッディー京北）
- ・ 京都京北ナビにおける「桜開花情報」のリアルタイム発信（令和5年～）
- ・ 「鯖寿司大博覧会」の開催（令和5年～）
- ・ 西の鯖街道協議会による「鯖街道広域版サイクリングマップ」作成（令和8年）
- ・ 「SANSА OPEN WEEK（サンサ オープン ウィーク）」における「京北マルシェ」の開催（令和8年）
- ・ 各自治会等による地域イベントの継続開催
- ・ 京北体育振興会をはじめ、地域団体でモルック競技等ニュースポーツの普及（京北親睦モルック大会・地区グラウンドゴルフ大会等）

10年間の振り返りについて

- 「京都 京北未来かがやきビジョン」掲載事業の進捗状況等について
(令和7年12月末現在)

進捗状況： 27施策中 27施策すべてに着手
61事業中 完了： 20事業、着手済： 39事業、未着手： 2事業

【参考】京都市・京北町合併建設計画

合併特例債を活用しながら、京都市域と京北地域の均衡ある発展のための事業を推進

- ・対象期間：平成17年度～**令和7年度**21年間
- ・対象地域：京北地域及び周辺地域（北部山間地域）
- ・総事業費：455億円（うち、合併特例債充当102億円）

京都市過疎地域持続的発展計画

過疎債を活用しながら、京北地域の持続的発展に向けた取組を推進してきたが、新過疎法により、京都市は一部過疎の要件を満たさなくなりましたが、経過措置により8年度までは対象

- ・対象期間：平成17年度～**令和8年度**22年間〈計4計画の合計〉
- ・対象地域：京北地域
- ・総事業費：227億円（うち、過疎債充当113億円）

※ 上記の両計画には重複事業があるため、両事業の総事業費の合算が682億円となるわけではない。

10年間の振り返りについて

■この10年間で完了した主なもの

- ・ 京都京北小中学校開校
- ・ 光ファイバー開設
- ・ 移住促進に向けた窓口設置、情報発信
- ・ 地域内外の文化交流事業の実施 等

■この10年間で着手済の主なもの、未着手のもの

- 着手済：京北デマンド交通乗車体験実施、京北病院通院患者等送迎実施、田舎暮らし体験住宅運営、消防及び消防団車両の更新等の実施、元小学校の空き教室をアート活動拠点として使用開始等
- 未着手： 農の学校等地域活性化施設整備事業
 - ⇒ 農業振興の拠点を一体的に整備する計画だったが、施設整備費は多額の費用を要するため困難だが、地元団体等の協議会が取り組む地域活性化や担い手育成を支援
基盤整備事業
 - ⇒ 具体的な事業計画がなかったため未着手だが、土地改良区等に対し、水路や樋門等の水利施設の維持管理の支援を継続

事業の必要性に応じて、今後についても京都市として取り組む。

京北地域に暮らす皆さんのまちの未来等への思い

京北ふるさとまつりや京北きょうかん通信11月号及び12月号、京北出張所、WEB等でコメント募集（令和7年11月2日～12月26日）したものを次ページ以降に分析しました（生成AI技術を活用）。

【アンケート項目】

○京北のまちが10年後、20年後への思いについて

回答数： 100件

○京北のまちの好きなところや大切な思い出等の愛着について

回答数： 49件

⇒ いただいたコメントを子ども・若者世代（～20歳）・お父さん、お母さん世代（21～65歳）・おじいちゃん、おばあちゃん世代（66歳～）の世代に分けて分析

京北地域に暮らす皆さんのまちの未来等への思い

■子ども・若者世代（～20歳）

○京北のまちが10年後、20年後への思いについて

- ・ **活気にあふれ、多様な人々が交流する賑やかなまち:** 若い世代も活発に参加し、多世代が楽しく交流する、エネルギーに満ちた京北の未来を思い描いています。
- ・ **京北の魅力を活用した産業振興と成長:** 地域の資源を活かした産業の育成や企業誘致を通じて、京北が経済的に成長し、仕事の機会が増えることを期待しています。
- ・ **自然を保ちつつ、新しいものも取り入れる発展:** 生まれ育った美しい自然環境を守りながら、同時に新しい技術や文化も柔軟に取り入れ、発展していくまちであることを望んでいます。

○京北のまちの好きなところや大切な思い出等の愛着について

- ・ **生まれ育った故郷としての愛着と安心感:** 「ここで生まれた!!」という原体験が京北への深い愛着の基礎となっており、自身のルーツとしての場所として大切にしています。
- ・ **自然の中での遊びや活動の楽しい思い出:** きれいな川や「にこにこ広場」での遊び、京北ふるさとまつりへの参加など、幼少期に京北の豊かな自然の中で体験した楽しい活動が、かけがえのない思い出として心に残っています。
- ・ **地域の人々との触れ合いや助け合いの経験:** 地域のお祭りや活動を通じて、温かい人々と交流し、助け合いの精神を学んだ経験が、京北への愛着を育む要因となっています。

京北地域に暮らす皆さんのまちの未来等へのお思い

■お父さん、お母さん世代（21～65歳）

○京北のまちが10年後、20年後への思いについて

- ・ **京北ならではの自然と共存する暮らし、子育て世代の定住促進:** 豊かな自然環境を保持しつつ、それを活かした子育てがしやすい環境を整備し、若者や子育て世代が安心して住み続けられるまちであることを求めています。
- ・ **多様な人々が交流し、共に地域を盛り上げる体制:** 移住者と既存住民が協力し合い、地域全体で一体となって京北の魅力を高めていけるコミュニティ形成を目指しています。
- ・ **地域資源を活かした持続可能な産業（農林業など）の創出:** 自然という地域資源を有効活用した新たな産業や雇用の創出を通じて、地域経済が自立し、発展していくことを望んでいます。

○京北のまちの好きなところや大切な思い出等の愛着について

- ・ **五感で感じる京北ならではの豊かな自然（水・空気・時間）と特産品:** 美しい水、澄んだ空気、穏やかな時間の流れなど、京北の自然が五感に響く形で癒やしと心地よさを提供し、京北子宝いもなどの特産品が地域への誇りとなっています。
- ・ **都市部にはない体験と人間関係の魅力:** 大雪の中のふるさとバス、移住者と地元住民が協力する関係性など、都市生活とは異なる京北ならではの特別な体験や、多様な人々との交流が強い愛着を生んでいます。
- ・ **子育てや趣味を深められる環境:** 子育てに良い環境、地域イベントや農林業などの体験を通じて自己実現ができる点が、京北の魅力として挙げられています。

京北地域に暮らす皆さんのまちの未来等への思い

■おじいちゃん、おばあちゃん世代（66歳～）

○京北のまちが10年後、20年後への思いについて

- ・ **若者による活気とにぎわい、人口減少の克服:** 地域を担う若者が戻り、増えることで、京北が活性化し、にぎわいを取り戻すことを強く期待しています。人口減少への危機感が根底にあります。
- ・ **生活を支えるインフラ（医療・子育て・交通）の維持・強化:** 京北病院や保育園、バス路線など、安心して住み続けられるための基本的な生活サービスの継続と充実を最重要視しています。
- ・ **豊かな自然環境の保全と活用、基幹産業（農林業）の振興:** 長年親しんできた美しい自然が未来も守られ、それらを活かした農林業がさらに発展することを願っています。

○京北のまちの好きなところや大切な思い出等の愛着について

- ・ **心の拠り所となる豊かな自然風景:** 栗尾峠からの眺めや美しい山々、子どもの声が響くのどかな風景など、長年の暮らしの中に溶け込んだ京北の自然が心の癒やしであり、強い愛着の源です。
- ・ **温かい人間関係と助け合いの地域コミュニティ:** 地域住民同士の温かい繋がりや、互いに助け合う精神が京北での生活の安心感と満足感に繋がり、大切な思い出として記憶されています。
- ・ **日常生活を支えるインフラ（医療・交通）の存在:** 京北病院やふるさとバスといった、日々の暮らしに必要な施設やサービスがあることが、京北を安心して暮らせる場所として評価し、愛着を感じる理由となっています。

未来等の思いを踏まえ今後のまちづくりの方向性

以上を踏まえたまちづくりの方向性の例示を以下のとおり作成

(生成AI技術を活用)

各年代の住民の声に共通する「自然と伝統への愛着」「暮らしやすさ」「安心」を核とし、それらを踏まえたまちづくりの4つの方向性、すなわち「多世代交流・地域イベント」「自然・伝統を生かした観光・産業振興」「インフラ・公共サービス整備」「住民参加型まちづくり活動の強化」に関心があります。

これらを生かした具体策は次ページ以降のとおりに

未来等の思いを踏まえ今後のまちづくりの方向性

<まちづくりの方向性の例示>

・全世代を対象とした、多世代交流や地域イベントの実施

「まちの仲間意識」を高めるために、年齢や立場を超えて誰もが参加しやすい交流の場とイベントを企画・運営

・自然と伝統を生かした観光と産業振興

京北の豊かな自然と歴史的資産を最大限に活用し、地域経済を活性化するとともに、地域の価値を未来へ継承

・インフラと公共サービスのバランスの良い整備

高齢者から若者までの多様なニーズに応え、「暮らしやすさ」と「安心感」を確保するための基盤を整備

・住民参加型のまちづくり活動の強化

世代や立場に関わらず、住民が京北の未来を「自分ごと」として考え、意見やアイデアを反映させる仕組みを構築

今後のまちづくりについて (京北地域コミュニティHubについて)

■「京都京北 未来かがやきビジョン推進会議」について

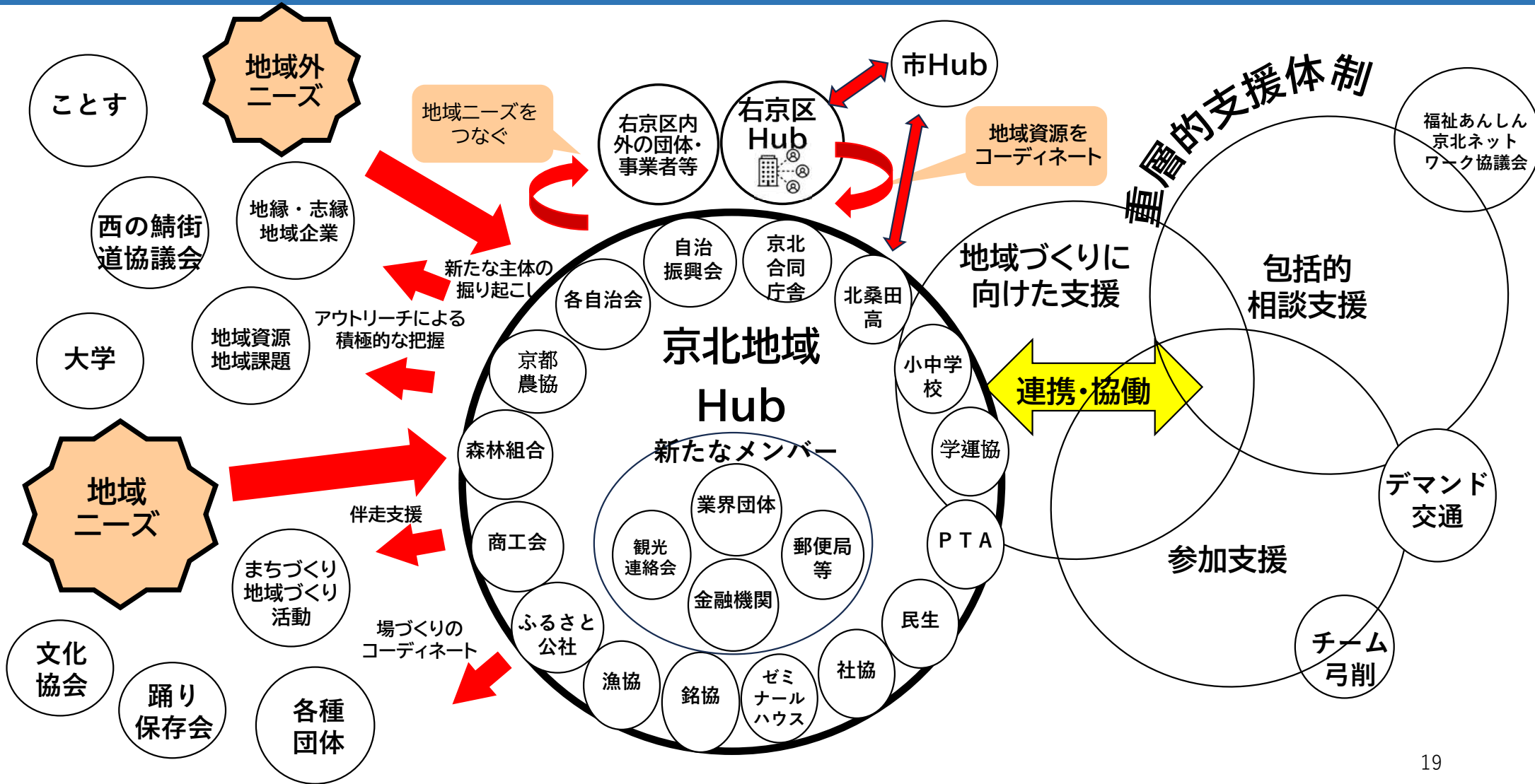
これまでビジョンの実現に向けて地域住民が主体となったまちづくりを進めてきた同会議については、「京都 京北未来かがやきビジョン推進会議開催要領」の規定に基づき、令和8年3月末をもって任期を迎えるが、地域の振興を目指す趣旨を発展させるため、以下に引き継いでいく。

【参考】京都 京北未来かがやきビジョン推進会議開催要領（抄）：（任期）第3条 構成団体の任期は、令和8年3月までとする。

■新たに令和8年度に京北地域コミュニティHubを設置

自治組織、地域団体、行政機関をはじめ、京北観光連絡会、重要インフラである金融機関や郵便局等を含め、地域横断的なメンバーで地域課題の共通認識や情報共有など、「わたしたち京都市民がめざすまち」という「京都基本構想」の理念を京北の地で具現化するため、「多層的でゆるやかなつながり」でありながらこれまで以上に顔の見える協力関係を形成・促進する会議体を新たに設置する。6地域が「一つの京北」としてのまとまり意識を醸成するとともに、集落形成を維持するための人口維持を目指し、U・Iターンの促進や関係人口の創出に取り組む。京北地域に暮らす右京区民として、京北の豊かな自然、歴史、文化といった京北の本物（ほんまもん）の価値を右京区民とより一層分かち合い、交流を深めることを核とする。また、その輪を京都市民はもとより、ひいては国内外の人々へと広げていくことで、京北が未来へと貢献し続けるまちとなることを目指す。

京北地域コミュニティHubイメージ図について



新たな会議体の役割（「京都基本構想」の理念を具体化）

■ 課題共有等の場（京北地域コミュニティHub）→ 「住民参加型のまちづくり活動の強化」

多層的でゆるやかなつながりの精神を活かし、地域内外の様々な立場や肩書きを超えた横断的なメンバーによる課題共有や情報交換の場を設ける。京北出張所が事務局となって誰もが安心と愛着を抱ける心地よい住民が主体的に参画できるまちづくりを目指し、地域の一体感と活力を高める。

■ 京北地域の伝え遺してきた価値の未来への伝道者的役割→ 「自然と伝統を生かした観光と産業振興」

悠久の自然との共生の中で育み、伝え遺してきた歴史や文化等の価値、そして謙虚に自然と関わり続ける姿勢を未来へと受け継ぐ伝道者の役割を担う。地域の豊富な森林や農地をはじめとする資源を活かし、京北ならではの本物（ほんまもん）を追究・創造し続ける産業と観光を振興する。住民の地域への愛着や幸福度を高めながら、京都市全体が目指す世界に類を見ない独自の価値を新たに創造し続ける一翼を担うことで、関係人口の拡大へとつなげる。

■ 未来の担い手を育成する事業の実施主体→ 「全世代を対象とした、多世代交流や地域イベントの実施」

新規事業「ミニ京北」事業の企画運営に通じ、子どもたちがこのまちの自然や歴史と文化を通じて豊かで鋭敏な感性を育み、学び続けられる場を創出する。これにより、未来を担う子どもたちに地域に対する愛着を持ってもらうことを目指す。また、この事業を核として各種団体や事業者と連携し、世代や立場を超えてともに学び合える、夢中と感動に溢れた多世代交流や地域イベントを推進することで、未来の担い手育成と「一つの京北」としての地域コミュニティの活性化を図る。

今後のスケジュール（案）

- 3月～ 京都京北未来かがやきビジョン
推進会議（対面開催）
- 4月～ 新会議体に係る発足準備
- 6月～ 第1回京北地域Hub会議
（対面会議）
- 7月～ 事業実施に向けた準備・検討
- 12月～ 「ミニ京北」の開催
- 2月～ 第2回京北地域Hub会議
（今年度の振り返り及び
新年度に向けた検討等）

【参考】区運営方針策定関連

- 2月 方針案策定
- 3/5 大交流会にてアンケート実施
- 5月 運営方針策定
A3 1枚もの
左側：5年間のまち
づくりの方針
右側：1年間
予算広報掲載
事業等
※京北分は別途作成
(A4)